

Fontaine

nouvelle

vol. 38

発行日 2013年1月15日
発行/岸和田文化事業協会〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Email:fontaine@sensyu.ne.jp
http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/

新年のご挨拶

岸和田文化事業協会会長 松本 則子



新年あけましておめでとうございます。

オペラ(Opera)と言えば「椿姫」か「蝶々夫人」と思いますが、なんとイタリア語では「仕事」という意味もあるそうです。イタリア語もラテン語から発展してきたそうで、ラテン語でOperaは仕事という意味で、生きる喜びの表現がOperaという言葉で仕事を意味したと書かれています。面白いのは、仕事とは別に労働という言葉もあって、これは他人に命じられて苦役としての活動という意味でLaborだそうです。

イタリアのボローニャが、Opera(生きる喜びの仕事の意)で赤字都市から黒字都市になった話を聞きました。語ってくれたのは「一産業と文化の息づく街へ『創造都市への挑戦』」という本を書かれた大阪市立大学教授の佐々木雅幸先生、岩波現代文庫で発行されています。

イタリアのボローニャは大企業を誘致して市を再建したのではなく、ボローニャにあった従業員5人というような町工場が連携して、世界企業になっていったという話です。

その典型が紅茶のティーバッグを発明し、ティーバッグ作りからスタートして、薬のカプセルを発明した会社だそうです。この会社は大企業ではないけれど世界企業だと書かれています。有限会社の町工場だけど世界企業になっている会社は他にもいっぱいあるそうです。

町工場がお互いに切磋琢磨し、アミーゴ(仲間)として協力しあう、上下関係ではなく横に連なって

世界企業になるそうです。

そうなる会社は費用対効果や効率を追求してなくて、職人の創意工夫が問題になり、会社の発展には柔軟な考えの専門職人がいるかないかが重要だそうです。柔軟な考えが生まれるためには生活の中に文化芸術が必要なので文化芸術を大切にすると書かれています。

ボローニャ市内に劇場が10幾つもあって、それぞれがオペラ用、バレエ用、子ども用と特化されています。劇場や文化活動の場がどんどんつぶされていく大阪とは大違いです。

日本で芸術をしていると世の中のはみ出し者で極つづしみたいに思われているのではと、肩身が狭くなりますが、ボローニャでは産業の基礎は文化芸術であると位置づけられているのです。

日本でもボローニャのように文化芸術で町おこしをしている都市があるそうです。それは金沢市ですと、やはりこの本に書かれています。

ダイワ紡績の跡が現代美術館になっていて、子どもにわかる美術館をコンセプトにしているそうです。子どもが来るということは親もついてくるし、美術館に通ったこどもは大人になったら利用者になるという長いスパンで考えているそうです。

歴史も伝統もある岸和田市も文化芸術中心の創造都市にならへんかなと夢見ています。

途方もない夢物語で新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願ひいたします。



窮民授産事業に尽力

ただかた
「山岡 尹方」

山岡尹方(天保11年～大正4年)は、岸和田で初めてのプロテスタントのキリスト教徒であり岸和田煉瓦の経営に携わったことで知られています。山岡尹方は岸和田藩士田中文右衛門の次男でほぼ同格の城代山岡新五左衛門の養子となりその娘右左と結婚、邦三郎が生まれたが翌年右左は亡くなり、その妹左居と再婚。トモ、京、満寿の娘が生まれました。慶応2年家督を継いでまもなく明治維新となり、明治3年に岸和田藩権少参事、翌年権大参事に任命されました。廃藩置県により堺県になり、明治5年9等出仕を申し付けられたのち堺県権典事に任命されています。しかし改革により帰農し開墾の傍ら水飴製造や零落状態の土族の生計のために煉瓦製造に従事したがうまくはいかなかったようです。水飴製造は長く行い、明治18年には農商務省へ商法登録を出願し明治23年の第3回内国博覧会に出品し褒状を得ています。努力の人であったようです。その一方で明治9年頃から従弟の熊沢友雄の日記によれば山岡集会と呼ぶ研究会を行い、法律を調べたり民事法の研究をしたり、民権について文明開化の実績はどうか討論をしています。毎週の研究会に10名以上集まったといいます。翌年も継続しこの集まりを時習社と名乗り、岸和田での民権運動の母体となりました。

大きな転機になったのは、明治11年旧藩主岡部長職が新島襄に岸和田の人々にキリスト教を伝導して欲しいと依頼し、来岸の新島襄に会ったことでした。依頼状には山岡尹方についてこう述べています。「とりわけ慎重で忍耐強い人の一人です。どのような人、どのような問題についても耳を傾ける用意のある人です」。9日間の伝導で新島襄は岸和田に好感を持った



第一煉瓦製造会社

のでしょう。同志社の生徒を(その中には後の徳富蘇峰、徳富蘆花もいました)岸和田に送り、新島八重や女性宣教師グールドーを派遣し女性への伝道を行っています。それに応えて岸和田から7名の生徒が同志社に入学しました。その中に娘のトモがいます。トモは同志社女学校の最初の卒業生になりました。

明治13年に岸和田伝道に来た下村孝太郎と従弟の須藤与惣を教師に英和学校を開設しましたが半年足らずで閉鎖になりました。尹方は明治14年同志社速成邦語学科に入学し、明治15年島之内教会で受洗しました。そして他の信者とはかり岸和田教会を明治18年に創設、教会の重鎮として永く執事を務めました。

明治20年寺田甚与茂や金納源十郎らによって窮民授産事業として多くの手数工程を要する煉瓦製造が企画され第一煉瓦製造会社を設立、尹方は明治21年社長に就任。煉瓦にクロスを刻印し、男女共働きを奨励、その子どもが就学するよう助言したといえます。顧客には鉄道会社、紡績会社も多く、同志社女学校の静和館建設にも使われ、それらの集金も担当したようで、西は九州佐賀、東は名古屋あたりまでを範囲として度々旅行しています。その合間をぬって岸和田にいるときは教会に行き執務をしたようです。

明治39年子息邦三郎の妻山岡春の日記に大林組の感謝状と金千円贈呈の記事があり、そこには「信義を重んじ契約を履行し篤実を旨とし」と書かれていたといえます。おそらく日露戦争のころ物価が上がったにもかかわらず以前の契約値で集金したことで大林組は苦境を救われ感謝状となったのでしょう。尹方は経営の中にキリスト教徒の生き方を示していたと言えます。明治42年に22年間の勤めを辞しました。明治45年尹方と左居は共棲50年を迎え、子や孫が各方面に祝辞を依頼したら、徳富蘇峰、成瀬仁蔵、浮田和民、安部磯雄、宮川経輝、村井知至等の尹方や子どもたちにつながる著名人が書画を寄せています。大正4年75年の生涯を終えました。

岸和田文化事業協会 理事さん リレーインタビュー

■ 大正琴と向き合って

理事 橋野 澄子



大正琴は、大正元年名古屋の森田吾郎にげんごが二弦琴とタイプライターをヒントにし、誰でも演奏できる楽器として発展させ「日本生まれの西洋楽器」といわれ流派も大小百以上存在し、全国に百万人以上の愛好者がいます。

音域の違うソプラノ、アルト、テナー、ベースと異なる種類を、最大流派である琴伝流きんでんりゅうが開発し、音色が広がり深い響きとなり豊かな大正琴アンサンブルが演奏できるようになりました。

私は地域の文化会館、公民館、福祉センター等のクラブ活動で大正琴を指導し始めて二十余年になります。大正琴という楽器を、人と人を結ぶコミュニケーションツールに

して老人大学、小学校、保育園で演奏を聴いて頂き、大正琴に合わせて、童謡、唱歌、歌謡曲を歌い、演奏指導し、年齢・性別を問わず世代間交流を楽しんでいます。

又、国際交流にも毎年参加し、今年は大正琴とポピュラー、クラシックの教本をプレゼントし、とても喜んで頂きました。今頃はオーストラリアで「マイウェイ」でも弾いてくれていると嬉しいのですが…。

たかが大正琴されど大正琴。全長70cm前後の木製のくたい躯体に弦が張られ、小さなボタンを押さえピックで弾く愁いを帯びた音色は時代を越えて歩いていく事を願っています。

■ 趣味が高じて……

理事 黒木 幸子



私が子どものころ、父は運送屋で働いていました。

小さな借家に住み、決して裕福とは言えない生活でしたが、庭？通路？に、コンクリートで作った2畳ほどのプールがあり、そこには大きな鯉が泳いでいて、その上には段々の棚があり盆栽が所狭しと置かれていました…その頃の父の趣味です。

仕事が休みになると、父は庭でござごそしはじめ、毎回何かしらの変化がありましたが、ある日からござごそではなく遙かに大きな音がし、とうとう豪邸でよく見る石造りの池（自宅に見合った大きさですが…）を造ってしまいました。

「お父ちゃんの趣味は大掛かりやなあ。」と思っていたら、いつの間にか自分で造園業を始めてしまいました。

62歳で他界してしまいましたが、趣味が仕事にできて……短かったけど「いい人生やったやん」と今になると思います。

私も娘と共に始まった「岸和田おやこ劇場」での舞台鑑賞。いつの間にか舞台鑑賞が趣味になりました。

現在、当協会では舞台等のお手伝いができること……私の趣味のひとつですね。



歩いて岸和田のよさを知る

岸和田慢歩

第9回 「南海本線蛸地蔵駅から岸和田城下南西部を歩く」

岸和田慢歩
MAP

スタート
ゴール



①南海本線蛸地蔵駅

スタートとゴールの蛸地蔵駅は1914(大正3)年開業、1925(大正14)年に現在の位置に移転され、そのときに今の駅舎が新築(1927年説もあり)。ステンドグラス(蛸地蔵物語)の明り窓など、モダンな佇まいが特徴。

① 南海本線蛸地蔵駅

南海本線

至貝塚



労働基準
監督署 ●

② 十六軒長屋

⑬ 蛸地蔵駅商店街



②十六軒長屋

全長120メートル、四戸一で16軒が並ぶ長屋は1922(大正11年)の築と伝えられ、現在は多少手が加えられているところもあるが、昔の面影をそのまま残す家もある。

③三の丸神社

岡部家三代長泰が京都伏見稲荷大社から1703(元禄16)年に城内三の丸に勧請(1700年説もあり)。このとき祭礼を執行し、城下の人々も参詣のために城入りを許されたのが「岸和田だんじり祭り」の始まりとされている。



③ 三の丸神社

④松平康重の墓

1619(元和元年)、丹波篠山から5万石で岸和田城主に着任した松平周防守康重の墓。かつてこの場所には浄土宗心蓮寺があり、康重は没後、この寺に葬られたと伝えられている。康重の子・康映のとき、松平家は播磨山崎に移封。心蓮寺は元禄年間に光明寺の隠居寺となったが、明治の初めに廃されている。



⑫ 上堀地蔵尊

④ 松平康重の墓

元NTTビル ●

⑤清水地蔵尊

土生郷の一番先であったと伝えられる地蔵尊。「シミズ」は湧水の語源であるとともに、三角の地形を指す。

⑥たこちそう石碑

旧紀州街道沿い、天性寺参道の左側にある石碑。字は江戸時代の書家・池大雅によるものといわれている。

⑪ 高天寺跡

堺阪南線(旧国道26号線)

⑦天性寺

松浦肥前守のとき、根来雑賀衆に岸和田城が攻められ、あわや落城というとき大蛸に乗った法師が現れ、危急を救ったという「蛸地蔵伝説」を今に伝える浄土宗の寺。1616(元和2)年、得誉上人の開基と伝えられ、1827(文政10)年、岸和田城天守閣が落雷によって焼けた際、同寺も焼失。日本最大といわれる地蔵堂は天保年間に再建されたといわれる。

⑤ 清水地蔵尊



⑩ 光明寺

⑥ たこちそう石碑

⑨ 梅溪寺

⑦ 天性寺

⑧ 正平地蔵尊

※編集の都合上、地図の縮小率は正しいものではありません。

国土地理院発行やネットなどの正式な地図と照らし合わせて、散策することをおすすめします。

開発の進んだ岸和田駅よりも蛸地藏周辺は、岸和田城にまつわる史跡や城下町の風情が多く残されている地域です。今回は、岸和田城の南側に残る史跡を訪ねるコースを紹介します。

理事 藤田保平・齒黒猛夫

⑧ 正平地蔵尊

天性寺の山門に入って右側に、奥から「太子堂」「観音菩薩」が祀られ、一番手前のお堂にあるのが「正平地蔵」。「正平十七年壬寅」と刻まれていて、正平17(1362)年とは南北朝時代の南朝の年号。もともとは小寺・池ノ尻(現・上町)辺りにあり、後に城内に移されたものが、明治の初めに天性寺で祀られたと伝えられている。

⑨ 梅溪寺

1600(慶長5)年、清頓和尚によって開山。豊臣秀吉の伯父で岸和田城主であった小出秀政により建立された、曹洞宗永平寺の末寺。1640(寛永17)年、岡部宣勝は実母の位牌「洞仙院殿梅溪宗考大姉」を移し、その墓碑を建立したといわれ、寺名は実母の法名からといわれている。

⑩ 光明寺

開基については不明。現在地に1571(元龜2)年、寺堂が中興され、かつては岸和田城伝馬口門と西大手門を固める要衝を占めていた。

⑪ 高天寺

高天寺は観蔵院(高見観音)、玄養院とともに、岸和田城周辺に置かれた修験道寺院のひとつで、現在は府道堺阪南線(旧国道26号線)と蛸地藏商店街が交わる交差点になっている。上町にある行者講「飛岩組」の社が、高天寺の行者が背負っていた笈(おい)であると伝えられている。

⑫ 上堀地藏尊

蛸地藏商店街の途中にある地藏堂。「上堀」の名は、この辺りがかつて岸和田城の「上堀」だったことから。

⑬ 蛸地藏駅商店街

岸和田城の上堀だった商店街。

スタート地点は「南海本線蛸地藏駅」。レトロな佇まいを残す難波方面行駅舎を降り、右に曲がってすぐの道を海側に向かうと、大正時代に建てられたという「十六軒長屋」が並んでいます。そのまま直進した行き止まりが「三の丸神社」です。神社から左に曲がって坂を降り、商店街通りをわたってしばらく歩き、一本目の道を右折して少し行くと、駐車場の中に「松平康重の墓」が建立されています。

来た道を海側に直進し、府道堺阪南線(旧国道26号線)に突き当たり、旧NTTビルの角を左に曲がってコンビニエンスストア前の交差点を右に曲がり、堺阪南線をわたってしばらくすると「清水地藏尊」のお堂が見えてきます。そのまま直進して旧紀州街道との交差点を右に曲がり、道なりに行くと赤いポストと石燈籠に挟まれた「たちそう」の石碑があり、左に曲がって参道を歩けば「天性寺」に到着。山門をくぐった右側に「正平地蔵」のお堂があります。

天性寺の山門前を大阪側に行くと「梅溪寺」。寺の角の広い道(通称疎開道を右に曲がり、旧紀州街道との交差点を左に曲がると「光明寺」。少し進んだ角を右に曲がり、「蛸地藏下り交差点」の辺りが「高天寺跡」です。

交差点を左に曲がって商店街に入り、ゆるい坂の途中、酒屋の角にあるのが「上堀地藏尊」の祠で、商店街を進むと蛸地藏駅に戻ります。今回のコースは距離も短く、高低差もあまりないので、比較的楽な行程です。余裕があれば光明寺を訪ねた後、足を伸ばして紀州街道沿いに残る、城下町の町並みを散策するのもおすすめです。

岸和田あ・ら・が・ら・と

相川町老人クラブ会長
安福寺住職

伊藤 正哲

12月23日の

かみしゅう

相川町上衆八人衆



ホテルの里・相川町の安福寺境内を通過して坂を少し上ると「おかんど」がある。そこで上衆八人衆(年長順の男性)が焚火を囲んで四方山話を楽しむ。毎年、12月23日と決まっている。

ほんの一昔前までは、村内の子供の数だけお菓子の袋を用意して、付添いの親たちも加わり賑やかだった。今は、元気な老人たちが、村を見下ろすお宮さんで、ひとしきり、話に花を咲かせている。午前中は今年の米の収穫を終えての初穂の寺参りと食事の後、午後から行われる素朴な行事である。

相川のおかんど、「岡堂」ではあるが、堂の形跡は今はない。それでも、小さな狛犬が檜の巨木を挟んで向かい、家形の小さな石塔が十基ばかり、でこぼこと並んでいる。

村人が「お宮さん」と呼んでいるのは、「天神さん」を祀っているからだろう。菅原道真さんは903年に没している。だから、千年もの時を刻んできた。素朴な行事ではあるが、実に感慨深い。また、村人の初詣もこの小さなお宮さんである。

この鎮守の森は、頂上までの小さな山ではあるが、かつて人間が木を伐ったことがない。だから、原始の林の姿をとどめている。見上げるばかりのアラカシの巨木や、うろのある古木。時には真夜中のムササビの叫び。これからまた千年、この素朴な宮さんと行事が続いてほしいものである。

Cultural Hot Spot In Kishiwada

明るく輝く天体に惹かれて！ 岸和田高校天体部

府立岸和田高等学校の4階建て校舎屋上にポッコリと丸いドームがのっています。天体ドームで口径31cm、333倍の巨大望遠鏡を内蔵しています。これだけ大きな望遠鏡を所有している高校はめずらしいと、この望遠鏡で天体観測を続けている元気なクラブを、昨年11月の終夜観測の日に訪問しました。

月や星を観るのが好き！

クラブ名は、「天文」ではなく目に見える「天体」にこだわって「天体部」と命名されたようです。しかし現在は「地学」に関係すれば何でも研究対象にして活動しています。地学教室に研究内容の展示があり、昨年5月の金環食の撮影写真は圧巻です。「岸和田のハザードマップ」が制作され、試作を重ねた防災グッズまでありました。今年度のSuper Science High school研究発表は「太陽と黒点」「化石」「流星観測」「和歌山大学研究室訪問」というテーマで、研究分野の広さが窺われました。

クラブ活動は、放課後と月1回の終夜観測、黒点の観測は毎昼休みと土曜日に当番制で行なっています。

部員は、3年生引退で現在1・2年生18人。天体部に入部のきっかけは「月や星、流れ星などを観るのが好きだから」、「天体写真を撮るのが好きだから」、「肉眼で見えないものが見える素晴らしさに惹かれて」や、「小学校4年生の時から天体部に入りたいと岸高をめざした」と様々でした。

今年2~3月に、肉眼でほうき星が！

昨年は天体ショーの当たり年でしたが、今年も捨て置けません。パンスターズ彗星、アイソン彗星が肉眼で見えます。そして天気の良い毎日、18時頃は春の星座、



天体観測巨大望遠鏡

21時頃は秋の星座、深夜は冬の星座を見ることが出来ます。(みなさん、夜空を仰いでみませんか?)

毎年夏に、天体部は和歌山のかわべ天文公園に合宿に出かけます。1



天体部のみなさん

晩で、ペルセウス座流星群などの流れ星を100個も観測ができるそうです。「なぜ、そこまで？」の問いに「周りの暗闇が重要、大阪は夜中も明るすぎる」との返事。そういえば、校舎隣の岸和田城もライトアップで明るいです。

太陽黒点の観察データは超貴重！！

毎日の黒点観測は、なんと40年も続けられていて貴重なデータが保管されています。黒点は11年周期で変わるもので、短期の記録では意味をなさず、大切な作業を熱意をもって楽しんで続けている様子が窺われました。最近では黒点の増減が乱れていて、太陽が活性化していると考えられるそうです。

明るく 熱く 温かく！

岸高HPでの校長先生の挨拶に「明るく、熱く、温かく、生徒に接していきたい」とありました。クラブ顧問の寺戸指導教諭は、まさに部員のやる気を引き出し、明るく熱く温かく指導されていると感じました。部員が取材にすべて応えてくれた後、『先生は？』と見回すと、後方で白衣の先生が微笑んで見守っておられたのです。私達が、3階の地学教室から天体ドームまでの暗い階段を、目を凝らして歩き始めたとき、サッと足元に光が射しました。部員が懐中電灯で照らしてくれたのです。勉強熱心だけではなく、気配りができる優しい部員達の行動に感激しました。

地域に生かしたい！

寺戸顧問は、「せっかくの天体ドームを地域に生かしたい。地域の子供たちに天体に興味を持ってもらえるよう何かできないか考えています」と話してくださいました。

先生の思いに、地域に根ざした活動を基本にしている岸和田文化事業協会も何かお手伝いできればいいなと学校を後にしました。

(取材・文 本郷元子 紙野陽子)

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。
アンケートにご協力いただいた方の感想を紹介させていただきます。

岸和田能 秋の名曲を観る会

平成24年10月19日(金)午後7時00分～

杉江能楽堂で大槻文藏氏による能「井筒」を実施し、124人の入場者がありました。

皆さんの声

- オペラやクラシックコンサートとは全く違った緊張感がありました。クラシックは、空間の全てを緊張が埋め尽くすけど、能には空間にある一点の緊張を感じました。
- 杉江能楽堂は、岸和田にある貴重な文化施設なので、継続して活用する企画をして欲しいと思います。
- 余り能を観る機会がないので、一年に1回杉江能楽堂で観られるのを楽しみにしています。
- 立ち居振る舞いの美しさ、衣裳の立派さに感激しました。
- いつもながら、厳粛な空間の空気に浸ることができました。



第32回自泉フレッシュコンサート ～秋に思いをはせて～

平成24年10月21日(日)午後2時00分～

ピアノとソプラノのコンサートを自泉会館ホールで実施し、51人の入場者がありました。

皆さんの声

- 曲の解説もあり、とても分かり易くて楽しいコンサートでした。会館も素敵で、充実した音楽に浸れる一時を過ごせて満足です。
- 表情豊かな歌声、ピアノのきれいな指の動き、音の響きが素敵でした。
- こういったコンサートに来るのは初めてでしたが、また来たいと思いました。
- 一生懸命歌われたり、演奏されたりしているのを見て、音楽の奥の深さを感じることができました。
- 会館に合ったコンサートだったと思います。

会員対象事業「絵手紙講習会」

平成24年11月27日(火)午後1時30分～

赤井理事に講師をお願いし、新聞紙や広告を使用した「ちぎり絵」で、時季にあった年賀状の絵手紙作りを行いました。

皆さんの声

- 初めてのチャレンジでしたが、新聞を使ってとても面白い作品ができました。
- 新聞にある色で、色々な作品が作れたのが楽しかったです。
- 初めての経験、捨ててしまう新聞を使っての絵手紙、広告の微妙な色合いが出て、ユニークな作品ができました。
- 絵手紙ではなく、新聞を千切って貼るだけで、何となく絵になるのが素敵でした。
- 今までに体験したことのないものに出会えて良かったです。大変満足しました。
- 細かい作業と眼を酷使する2時間でしたが、とても楽しかったです。



第33回自泉フレッシュコンサート ～名曲を訪ねて～

平成24年12月15日(土)午後6時30分～

ヴァイオリンとピアノのコンサートを自泉会館ホールで実施し、67人の入場者がありました。

皆さんの声

- ヴァイオリン、ピアノのソロと連弾、全て良かったです。
- 趣きのある建物でのコンサート、大変素敵で良かったです。
- 機会があれば、このような素晴らしいコンサートに是非来たいです。
- おいしいコーヒーを有難うございました。椅子が硬くて、ちょっとお尻が痛くなりました。
- アットホームなコンサートで良かったです。
- 初めて拝聴しましたが、華やかで楽しませていただきました。
- 曲の説明をもっと詳しくして欲しかったです。

岸和田文化事業協会の事業 Information



第2回 自泉ジュニア コンサート

オーディションで選ばれた小学生～高校生によるコンサート

日時:平成25年2月23日(土)
午後4時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:無 料



第6回フレッシュプレミアムコンサート 未来へ～ここから～

平成24年度自泉フレッシュコンサート出演者の中から
推薦された方々によるコンサート。

日時:平成25年3月2日(土)
午後5時開演

会場:マドカホール(岸和田市立文化会館)
入場料:前売 1,000円(当日各200円増)



■お問い合わせ 岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

程さんのJAZZ LIVE at 自泉 程さんと関学軽音楽部OB

テレビ・ラジオなどでおなじみの中国料理人、程一彦氏と、
その仲間たちによるジャズコンサート

日時:平成25年2月24日(日)午後2時開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:一般前売 2,500円
会員前売 2,000円(当日各300円増)

出演者: 程 一彦 (ヴォーカル)
安井 啓行 (テナー・サクソ) 石田 範仁 (ギター)
井上 正之助(ピアノ) 今井 正芳 (ベース)
古屋敷 喜六(ドラムス) 松江 真紀子(ヴォーカル)

東日本大震災復興 チャリティーコンサート in jisen

日時:平成25年3月20日(祝)午後2時開演
会場:岸和田市立自泉会館ホール
入場料:前売・当日共 1,000円



文化情報

隗展 日時:平成25年1月31日(木)～2月3日(日)
午前10時～午後5時
会場:マドカホール展示場
入場料:無料
主催・問合せ:岸和田美術の会(あまの)
TEL:072-445-1070

平成25年度(平成25年4月～平成26年3月)

会員募集

「岸和田文化事業協会」は、文化・芸術の発展をめざして活動する市民文化団体です。
鑑賞や参加だけでなく、創造、発表、企画、情報発信、提言など自らのネットワークを活用して
「地域の文化環境」づくりに貢献することを目的としています。文化・芸術を愛し、会の趣旨に
賛同される方はどなたでも入会できます。岸和田市在住以外の方も歓迎いたします。

年会費(入会費不要)

個人会員(1口)	2,000円	団体会員(1口)	5,000円
家族会員(1口)	1,000円	法人会員(1口)	10,000円
(個人会員の同居家族)		特別会員(1口)	50,000円

入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
郵便振込の場合は
口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで。
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

Fontaine vol.38

発行:岸和田文化事業協会
発行日:2013年1月15日

◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

◆編集委員 和田正則・紙野陽子・小島栄子
黒黒猛夫・藤田保平・本郷元子

編集後記...

あけましておめでとうございます。広報部一同に成り代わり、新年のご挨拶を申し上げます。

2011年から始まった「岸和田慢歩」も3年目を迎えました。担当者として岸和田市のあちらこちらを散策しておりますが、行くたびに新しい発見があり、驚きと感動を覚えています。そして、まだまだ紹介しきれっていない地域を訪ね、「ふるさと岸和田」を再認識できればと思っています。

最後になりましたが、本年も「ぬーべるふおんてーぬ」をよろしくお願ひ申し上げます。(歯黒)

<http://www2.sensyu.ne.jp/fontaine/>

岸和田文化事業協会

検索